

10章 防災・減災まちづくり計画編

10-1 防災・減災まちづくり計画とは

日本の国土は、全国土の約7割を山地・丘陵地が占めており、河川においては、標高に対し河口からの距離が短く急勾配であるため、降った雨は山から海へと一気に流れていきます。このような地形条件において、梅雨や台風により大雨が降ることで、水害や土砂災害がたびたび発生しています。

さらに、近年は、平成30年(2018年)7月豪雨や令和元年(2019年)の台風第19号、令和2年(2020年)7月豪雨をはじめとする生命や財産、社会経済に甚大な被害が生じる自然災害が毎年のように発生しており、今後も、気候変動の影響等により、このような自然災害が頻発化・激甚化することが懸念されています。

こうした自然災害に対し、居住エリアの安全確保などの観点から従来の河川整備などのハード対策とあわせて、災害ハザードエリアにおける新規立地の抑制や移転の促進などの、総合的な防災・減災対策を講じることが全国的な課題となっています。

このような背景を受け、令和2年(2020年)6月に、都市再生特別措置法が改正され、「居住誘導区域にあっては住宅の、都市機能誘導区域にあっては誘導施設の立地及び立地の誘導を図るための都市の防災に関する機能の確保に関する指針(防災指針)」を立地適正化計画において定めることが規定されました。

なお、本市では、防災・減災まちづくり計画として定めます。

10-2 本市における防災・減災まちづくり計画

本市は、駿河湾に臨む15.5kmの海岸線を有しており、市役所や鉄道駅といった主要拠点や産業施設、観光施設等、市民生活に係る多くの施設が焼津漁港や大井川港を中心とする沿岸部に集積し、全国屈指の漁業のまちとして発展してきました。

一方で、静岡県第4次地震被害想定では、最大クラスの地震・津波が発生した場合に沿岸部を中心に甚大な被害が想定されていることや、令和元年(2019年)10月には台風第19号の接近に伴う高潮の影響により沿岸部を中心に広い範囲が浸水する被害が発生するなど、沿岸部特有の災害リスクを抱えています。

本市における防災・減災まちづくり計画においては、市内で発生が懸念される水害、地震・津波災害、土砂災害における災害ハザードのリスクを分析し、課題を整理したうえで、本市が、海の恵みと共に発展した歴史的経緯を踏まえつつ、海を活かした産業、観光資源等の地域活力と安全・安心な暮らしが共存するまちづくりを目指し、既に実施している様々な防災・減災対策に加え、立地適正化計画が目指すまちづくりと連動した、ハード・ソフトの多重防御の取組による居住地のさらなる安全性を高めるための、防災・減災まちづくりに取り組みます。

また、防災・減災まちづくりの推進においては、様々な取組とその対策効果を検証しつつ、残存する災害リスクや最新の災害リスクを継続的に把握し、必要な取組を検討していきます。

10-3 防災・減災まちづくりの方針と計画内容

10-3-1 防災・減災まちづくりの基本方針

私たちの身近には、高草山を中心とした緑豊かな「焼津アルプス」や、大井川の恵みが潤す「志太平洋野」、豊かな海の恵みを育む「駿河湾」、身近な公園、街路樹など、本市の経済と市民生活を支える多くの豊かな自然（地域資源）があります。

しかし、このような豊かな自然は、ときに人や建物を襲う災害へと変わり、近年は気候変動の影響により、全国的に災害が頻発化・激甚化しており、毎年のように発生する自然災害が私たちの身近な脅威になりつつあります。

私たちは、この自然の力を正しく理解し、正しく恐れながらも、貴重な地域資源を活かし、市民の安全・安心な暮らしが共存するまちづくりを未来へと繋げなければなりません。

■基本方針

地域資源を活かし活力みなぎる地域と
心安らぐ暮らしが共存する住まいる City Yaizu

10-3-2 防災・減災まちづくり計画編の内容

防災・減災まちづくり計画編では、自然の力を正しく理解し、正しく恐れながらも地域資源を活かした心安らぐ暮らしの実現に向けて、身近で起こりえる自然災害のリスクと災害リスクが高い地域を継続的に把握し、まちづくりにおける課題について、様々な取組とその対策効果を検証しつつ整理したうえで、基本方針の実現に向けた防災・減災まちづくりを推進していくための具体的な取組を計画書としてまとめています。

- 市内で想定される自然災害リスクの把握
- 地域別災害リスクの把握（災害リスクが高い地域の把握）

防災・減災まちづくりの課題整理

防災・減災まちづくりの取組

10-4 近年発生している災害

本市においては、過去には昭和49年（1974年）の台風第8号（七夕豪雨）や昭和57年（1982年）の台風第18号では、瀬戸川の氾濫や土砂崩れなどにより多数の死傷者が発生する大きな水害が発生しています。近年は河川整備が進みそのような大規模な水害は発生していませんが、令和元年（2019年）の台風第19号、令和4年（2022年）の台風第15号では、床上、床下浸水となる水害が発生しています。

今後、複数の河川が流下する本市においても、他県と同様な大規模な水害が発生する危険が高まっています。

また、地震・津波についても平成23年（2011年）の東北地方太平洋沖地震以降、あらゆる可能性を考慮した最大クラスの地震・津波の発生による被害想定が公表され、発生すれば甚大な被害をもたらす恐れがあるとされています。

■近年の水害発生状況

- ・令和元年（2019年）10月12日 台風第19号
沿岸部を中心に浸水被害が発生 床上浸水163戸、床下浸水99戸
- ・令和4年（2022年）9月23日・24日 台風第15号
東益津地域を中心に浸水被害が発生 床上浸水157戸 床下浸水147戸



写真-6 近年発生した台風の様子
(令和元年 台風第19号)



写真-7 近年発生した台風の様子
(令和4年 台風第15号)

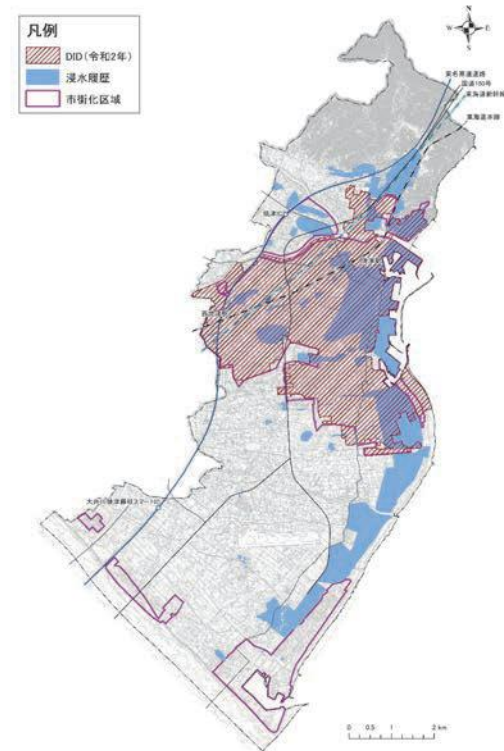


図-31 浸水履歴（津波浸水を除く）
(平成9年（1997年）～令和元年（2019年）
(資料：焼津市資料)

10-5 市内で発生が想定されている自然災害とリスク

本市においては、平野部の洪水浸水、沿岸部の高潮浸水、津波浸水、山間部の土砂災害などの発生が想定されています。本計画の対象とする災害ハザード情報の一覧を以下に示します。

表-2 災害ハザード情報の一覧

災害リスク	災害ハザード情報	指定範囲等
水災害 洪水（外水氾濫） 雨水出水（内水） 高潮	洪水浸水想定区域 家屋倒壊等氾濫想定区域 洪水浸水継続時間*	市内を流れる1級河川大井川と、2級河川(県管理)について、指定された区域 浸水範囲、浸水深、浸水の継続時間
	内水浸水想定区域*	焼津市公共下水道全体計画区域 浸水範囲、浸水深
	高潮浸水想定区域 高潮浸水継続時間	駿河湾沿岸部で指定された区域 浸水範囲、浸水深
	浸水履歴	平成9年（1997年）～令和元年（2019年）に発生した浸水の範囲
地震・津波災害	地震動	静岡県第4次地震被害想定 震度分布、液状化危険度ランク
	津波浸水想定区域	静岡県第4次地震被害想定により、 指定された区域
土砂災害	土砂災害警戒区域 土砂災害特別警戒区域 急傾斜地崩壊危険区域 地すべり区域 災害危険区域	高草山を中心とした山間部の山あい や山のふもと周辺で、土砂災害の発生により被害がおよぶ恐れがあると 指定された区域